

自立困難な若者の 研究動向

太郎丸 博(京都大学)

自立ってすごい!??

- 自立の意味は多様であいまい
 - 経済的、精神的、自己決定的 etc.
- 経済的な自立に限定

自立困難の3タイプ

1. 心身の病気・障害

2. ひきこもり・社会になじめない

3. 失業・低雇用 (underemployment)

- 働く意欲も能力もあるが、能力を発揮する仕事がない

議論を2と3に限定

女性の「自立」

- 女性は専業主婦になればいいから「自立」は必要ない？
- 女性も自立は必要
 - 独身女性の増加
 - 夫が安定した高収入を得られるとは限らない
 - 非正規の女性のほうが結婚しにくい

非正規雇用と若者の自立

- 若いうちは非正規でも大差ないが
- 長期的には低賃金・不安定で自立困難
- 移動率がポイント
 - 正規雇用から非正規雇用への流出は増えているが、逆は起きていない

なぜ自立が問題?

- 年をとってくると生活できなくなる
- 社会保障リスク
- 結婚できない(男性は死亡リスクが高まる)

自立できないのは自己責任?

- 自己責任論には否定的な論調がほとんど
- 非正規雇用の増加は雇い主側の要因
- 正規/非正規で意識に大差なし

問題

- 自立困難な若者が増加しつつある社会的背景は?
- 社会制度の違いは若者の自立にどう影響するか?

社会変動と 若者の自立

「ひきこもり」とは？

- 若いうちにはじまり、
- 精神的な病が原因ではなく、
- 家族以外とのコミュニケーションが極端に困難
 - 不登校やニートの一部が「ひきこもり」

「ひきこもり」の特徴

- 家の外に出られる者も多い
- 8割程度が男性
- まじめ
- オタクが多いわけではない
- 非生産的

「ひきこもり」の社会的要因

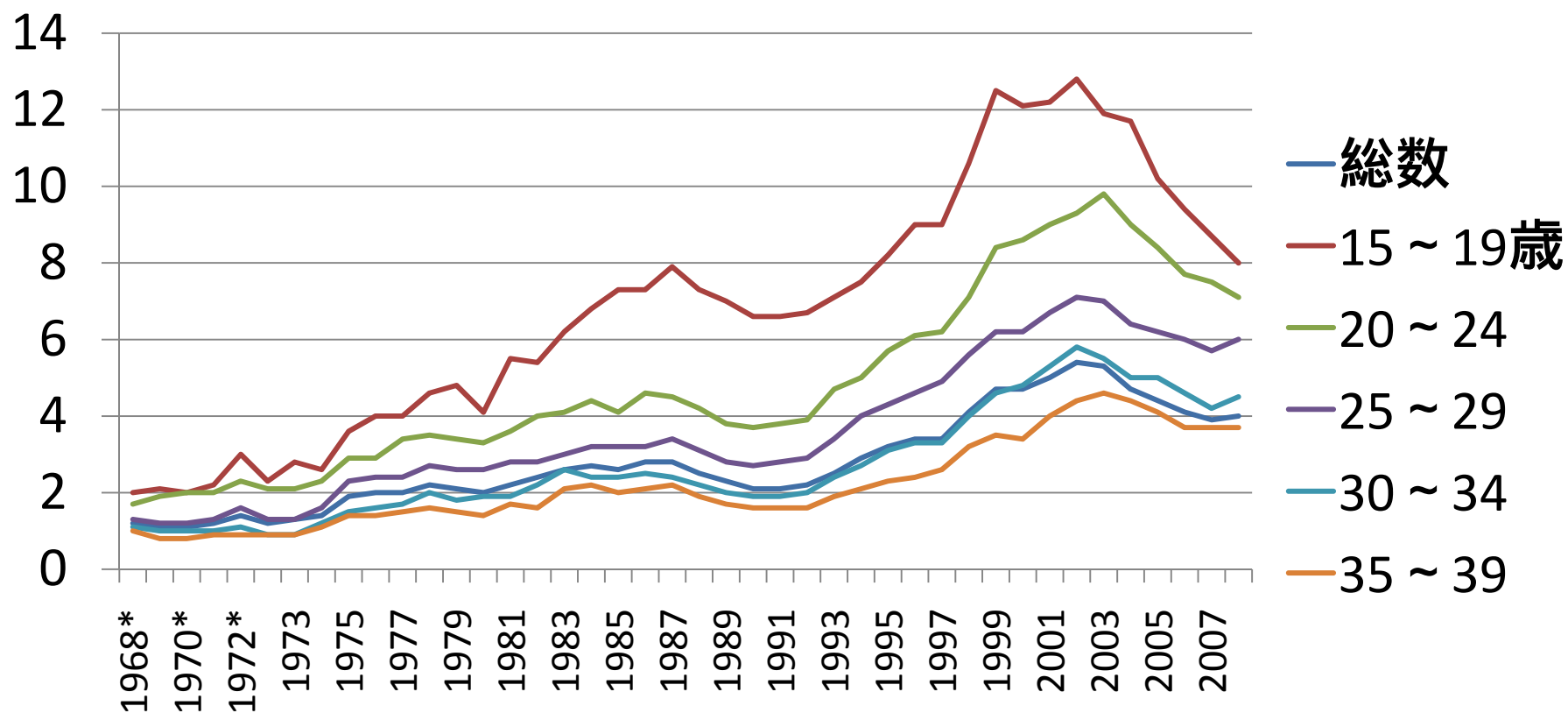
- 規範に対する過剰な同調が原因？
- 学校や勤め先の要求を十分に果たせない自分を許せない？

- 拘束型 強い拘束に弱いタイプ
- 解放型 「自由」に弱いタイプ

対抗文化の喪失が原因?

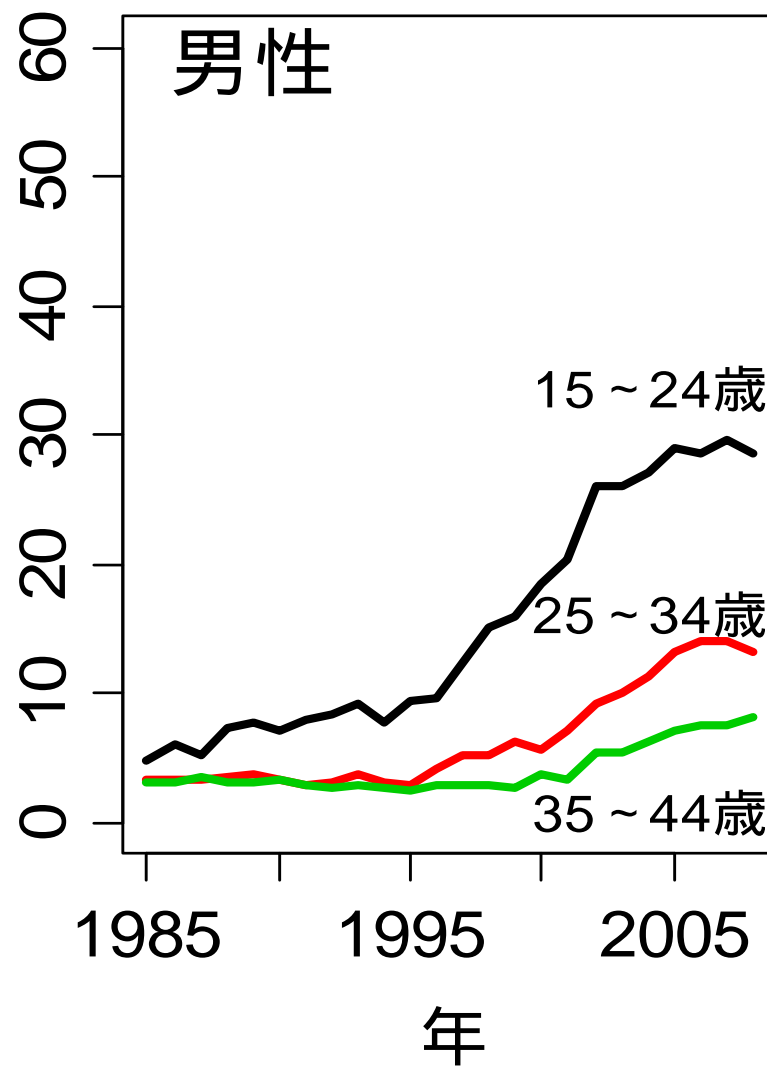
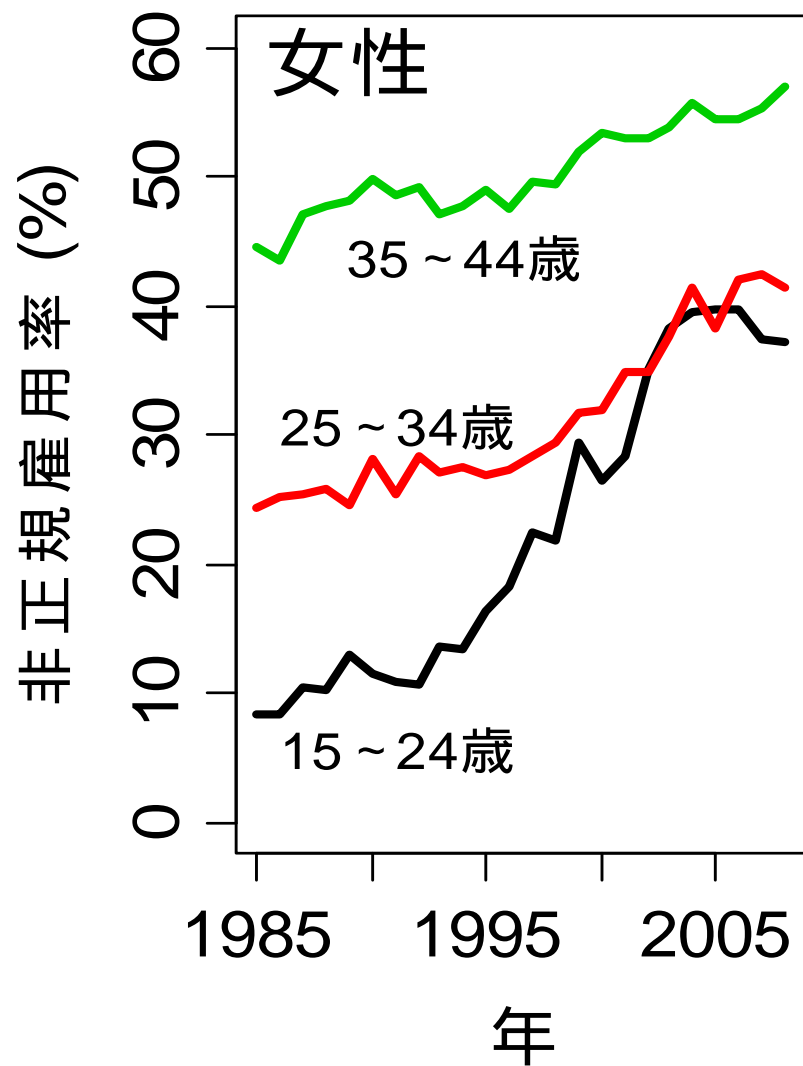
- 左翼の社会運動
- 非行・労働者階級文化
- 教養主義

完全失業率(%)の推移



- '09年3月で全体5%、15~19歳で11%

非正規雇用率の推移('85-'08)



景気循環と構造変動

- 失業率・非正規雇用率は
 - 景気の循環に応じて変化
 - 社会構造の変化に応じて変化

景気循環の効果

- 景気が良くなって人手不足になると非正規雇用を増やし、景気が悪くなると減らす

構造変動の諸側面

- 脱工業化・サービス経済化
 - パート労働への需要増
- グローバル化
 - 競争激化による人件費抑制圧力
- 90年代半ば以降の非正規雇用増加の主因は人件費抑制のために正規を非正規で代替したこと

社会制度と 若者の自立

雇用保護と失業率

- 雇用保護が強いと雇い控えが起きやすい
- そのため失業率が上がりやすい
- 職を得た人は保護されるが、得ていない人は職を得にくい
- 雇い控えをどうやって減らすか？

人的資本のシグナル

- 人的資本: 能力・生産性
- 人的資本は見えにくい
- 人的資本を示すシグナルが必要
 - 学歴、資格、実績、就業年数
- シグナルの精度を上げれば雇い控えは減るはず

教育制度と職場への移行

- ドイツのデュアル・システムは移行がスムーズ
- 職業教育に力を入れ、評価を標準化すれば移行はスムーズになる?
- 職業科の卒業生のほうが就職率はよい

福祉レジームと若者の自立

- 福祉レジームとは、政府、企業、家族がどのように福祉の機能を果たすかによって社会をいくつかのタイプに分類したもの
- 自由主義レジーム(英米)
- 保守主義レジーム(西欧)
- 社会民主主義レジーム(北欧)
- 南欧型/東アジア型をわけて論じることも

今後の課題

- 非正規から正規への移動を容易に
- ひきこもりの予防と対処
- Flexicurityの追求